

20周年

KENSEI

仙台の(株)健生

東北大学、(株)TESS、(株)健生による共同研究がスタート

リハビリシステムの安全性向上と効果の可視化を目的に

介護事業、整骨院事業の開業・運営支援を中心に全国規模で事業展開をしている(株)健生(代表取締役社長兼CEO 中尾充 本社・仙台市)が、バーチャル空間と足こぎ車椅子の組み合わせによる機能訓練(リハビリ)システムの安全性向上と効果の可視化を目的に、東北大学を主体とした三者間での共同研究をスタートさせる。

具体的には(株)健生の提携先、地元仙台の企業で足こぎ車椅子「Prohandl(プロフアハンド)」の開発・製造を行う(株)



(株)健生の中尾充 代表取締役社長兼CEO

TESS(代表取締役 鈴木 堅之 本社・仙台市)、プロフアハンドとバーチャル空間を活用した連携システムを研究する東北大学サイバーサイエンスセンター先端情報技術研究所(吉澤誠教授、杉田准教授研究室)、それぞれの効果の最大化を図る事を目的に、トレーニングメニュー開発や使用方法の提案、その検証を担うのが(株)健生という図式だ。

そして、トレーニング中の心拍数や皮膚温度などのバイタルの計測と、さらには自律



(株)東芝が製造販売するウェアラブル生体センサーを活用することで、トレーニング中のバイタル計測と自律神経状態の可視化を可能にする

神経の状態の可視化を目的に、(株)東芝が製造販売するウェアラブル生体センサーの「Silnee™Bar type」を活用する。

新しいケアビジネスモデルに

同時に(株)健生で展開する機能訓練型デイサービスのスマートFC加盟店(開業・運営支援モデル)に同システムをパッケージ化し、CGT(包括的高齢者トレーニング) + ニューロモジュレーションという新しいケアビジネスモデルの展開をスタートさせ、機

能訓練プログラムの強化を図る。

また、(株)健生の連結子会社kenseiセールスパートナー(株)(取締役社長兼CEO 菅原聡 本社・仙台市)は、(株)TESSが現在開発している、仮想空間走行システムと連動させたバーチャルシステムとプロフアハンド、(株)東芝の「Silnee™Bar type」を活用した「multi-roy」(掛合わせ)モデルの販売を、全国の介護事業者、医療施設に対して平成27年9月頃から開始する予定だ。

地元企業の経営多角化と活性化に販売代理店も募集

同社では、「この画期的な足こぎ車椅子をより多くの方に利用して欲しい」との思いと「地元企業の経営多角化、活性化の一助になることが出来れば」との思いから、(株)健生が扱うサービスコンテンツやプロダクトの販売代理店も同時に募集している。

「今回のような地元企業や大学とのコラボレーションは大変嬉しく思います。地元仙台、東北の地域貢献に繋がる動きは、この地に本社を構える企業としての使命と捉え、今後も地元企業間のコラボレーションモデルを模索しながら、地元仙台を軸として全国的展開を加速させたい」と、中尾社長は意気込みを語っている。



(株)健生が導入を決めたProhandl。歩行困難者でも自分の両足でペダルをこぎ、自由に走り回ることができる最先端のチェアサイクル(足こぎ車いす)。東北大学大学院医学系研究科が開発、国内で5000台以上の導入実績を持っている

●問い合わせ先
株式会社健生
〒980-0004
仙台市青葉区宮町3-5-20
KENSEI-BLDG
TEL
0120-143-271
URL
http://www.kensei-group.jp